

令和5年度 雀宮中学校 学校評価書

※ 網掛けの部分が昨年度から本年度に変更した箇所、及び評価結果を受けて新たに追記した箇所

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【基本目標】	1 心豊かで、思いやりのある生徒の育成（情操） 2 主体的に学び、考え深い生徒の育成（創造） 3 からだを鍛えたくましい生徒の育成（健康）	
【めざす生徒像】	【めざす教師像】	【めざす学校像】
思いやりのある生徒 主体的に学ぶ生徒 心身を鍛える生徒	魅力と実践力のある教師 みがき合い高め合う教師 愛情豊かで寄り添える教師	信頼される学校 学び合いともに伸びる学校 地域とともに歩む学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

生徒のよりよい成長のためには、教職員がプラス思考で組織的に行動すること、及び教職員と保護者・地域住民とが連携を密にすることが重要である。そこで、地域と一体になった教育活動を展開しながら社会性や郷土愛を育むとともに、生徒及び教職員が、互いに学び合い高め合う集団を形成し、生徒が夢や希望に向かっていきいきと活動できる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 確かな学力の育成を図り、生徒が自信や志をもち、主体的にいきいきと学べる学校づくりに努める。
- (2) 豊かな心とたくましい体の育成を目指し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成、人を思いやる心と人権を尊重する心の育成、及び健康で安全な学校生活の実現に努める。
- (3) 信頼される学校・学び合いともに伸びる学校・地域とともに歩む学校を目指し、家庭や地域との連携・協力を深めながら、創意ある教育活動に努める。
- (4) 教職員が互いに学び、高め合う協働的な同僚性の育成と専門的資質・能力の向上を図るとともに、業務改善の推進により勤務意欲の向上に努める。
- (5) ○地域学校園としての「目指す生徒像」の共有を図り、小・中が連携して地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

[雀宮地域学校園教育ビジョン]

一人一人が自らの良さを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～ いきいきとした活動を通して ～

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、栃木県教育振興基本計画 2025—教育ビジョンとちぎ—、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画や「令和5年度指導の重点」に基づき、地域の実態や生徒の発達段階、特性を考慮した特色ある教育活動を展開し、公教育の自覚のもとに、全教職員の理解と協力によって、本校の教育目標の実現を期す教育課程とする。
- (2) 「人間尊重の精神」を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指し、各教科・道徳科・特別活動、総合的な学習の時間の相互の関連と調和を図る。
- (3) 学習指導要領に基づいた各教科の目標・指導内容を明確にし、基礎的、基本的な内容の確実な定着と個に応じた適切な学習支援や習熟度別学習等の工夫を図り、個性の伸長と学力向上を目指す教育課程とする。
- (4) 学習指導要領の趣旨に則り、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、すべての学習の基盤となる読解力や問題発見・解決能力及び現代的な諸課題に対応していくための資質・能力の育成を目指す。
- (5) 地域に根ざした豊かな体験活動（地域交流活動、地域貢献活動、社会体験活動）を教育課程に位置づけ、地区内小学校及び高校との連携を図った社会性育成のプログラムとする。
- (6) 生徒の体力向上及び心身の健康の保持増進に努め、心と体の健康に関する指導や食育をより充実する教育課程とする。
- (7) 特別支援教育の主旨に基づき、合理的配慮を踏まえて、個に応じた指導体制の整備に努め、学校内外の関係機関やそれらの支援機能を生かした運用を図る。
- (8) 地域学校園内の小中教員の交流を図るための連絡会議等を年間行事予定に位置づける。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

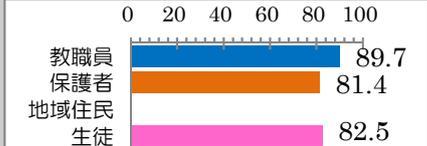
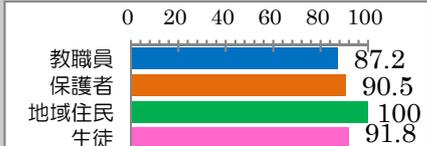
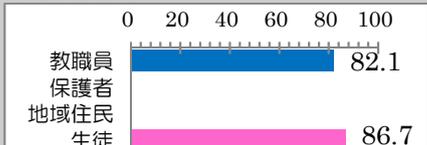
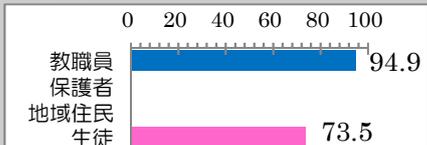
(1) 学校運営 「業務改善の推進と地域の教育力の活用による、いきいきとした学校づくり」
・業務改善の推進による、職員の勤務意欲の向上と生徒と向き合う時間の確保
○地域の教育力を生かした「地域とともに歩む学校」づくり
・特色ある学校づくりを行う学校運営の工夫
(2) 学習指導 「基礎的知識・技能を活用しながら、主体的に考え、表現できる生徒の育成」
○基礎・基本の確実な定着と、「わかる、できる」を実感させる授業の工夫・実践
・ICTの計画的・効果的な活用による「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善と「主体的に学習に取り組む態度」の育成
・生徒に、各教科等の「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現等を促すための発問・学習形態の工夫
(3) 生徒指導 「夢や希望に向かって挑戦する、たくましい生徒の育成」
○温かい人間関係のもとで、自分の良さを発揮しながらいきいきと活動できる生徒の育成
・一人一人の良さを認め、励まし、称賛して自己肯定感・自己有用感を高める指導の充実
・認め合い、励まし合い、助け合う温かみのある集団の形成と、耐性(我慢する、あきらめない、くじけない)を育む指導の充実による、いじめ・不登校等の未然防止
・感謝の心を育む生徒の育成
(4) 健康(体力・保健・食・安全)「食と健康に対する関心を深め、体力の向上を目指す生徒の育成」
○生涯を通じて健康なからだを維持していくための基盤づくり
・健康と食の安全確保のための指導の充実と体力の向上を目指すための工夫を凝らした教育活動の推進

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

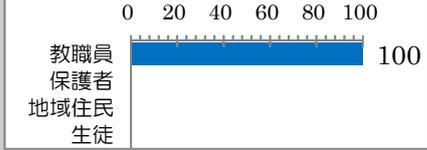
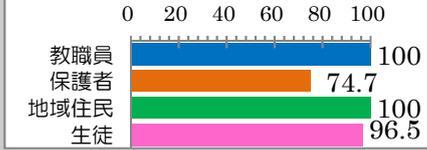
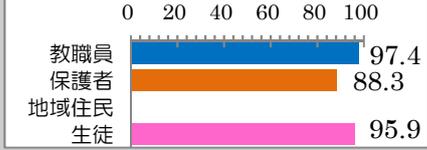
※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

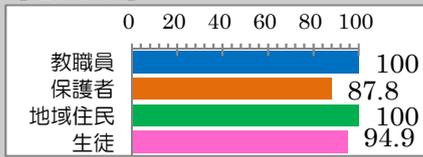
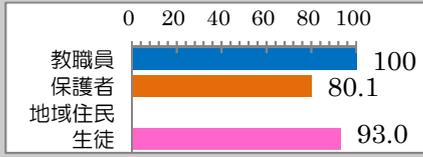
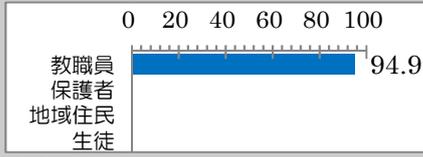
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
				以下は、すべて本年度末に記入した
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>以下の網掛け部は、R4からR5に変更・追記等があった箇所</p> <p>A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる」。 ⇒教職員・生徒の肯定的回答各80%以上</p>	<p>・学習目標の提示と振り返り活動の確実な実施を継続させ、生徒がわかったことを実感できる授業作りに努める。</p> <p>・生徒一人一人の理解度に応じた指導を充実させるため、AIドリルを活用したり、チーム・ティーチングや習熟度別学習のより効果的な運用に努めたりするなどして、基礎・基本の確実な定着を図る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答は、教職員 97.4%、生徒 88.5%で、共に数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・授業の中で、生徒が主体的に取り組む場面を明確に設定する。</p> <p>・教員同士で授業を公開し、生徒の学ぶ意欲をより効果的に高める環境や指導法を互いに探求し実践する。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」。 ⇒各対象者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・道徳の授業を通して道徳的心情の醸成を促す。</p> <p>・思いやりをもった行動を賞賛する、生徒会による「サプライズ表彰」制度を再開し、思いやりの行動を促す。</p> <p>・地域学校園あいさつ運動や地域ボランティア活動を精査し、積極的な参加を促す。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答は、教職員 89.7%、保護者 91.1%、地域住民 100%、生徒 91.2%で、すべて数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き、道徳の授業を通して道徳的心情の醸成を促す。</p> <p>・地域社会の中で模範となる生徒の行動を校内で紹介し、日常生活の中で、他を思いやる行動を促す。</p> <p>・地域ボランティア活動等のねらいや</p>

	<p>A3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私(生徒)は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒教職員、保護者、生徒の肯定的回答各80%以上</p>	<p>・全校体制で耐性(我慢する、あきらめない、くじけない)を育む指導の充実に取り組む。</p> <p>・生徒が自分の良さを発揮しながらいきいきと活動できるよう、一人一人の良さを認め、励まし、称賛して自己肯定感・自己有用感を高める。</p> <p>・ダイアリーに定期的に一人一人の良さを書くことに努める。</p> <p>・乗り越えられるような場面を作り、そこから達成感を味わわせる。(=B5 共通)</p>	<p>活動内容を随時見直し、整理を進める。</p> <p>【達成状況】</p>  <p>肯定的回答は、教職員 89.7%、保護者 81.4%、生徒 82.5%で、すべて数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、家庭学習ノートの取り組みなど継続して、取り組む活動などを計画的に入れていく。
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒各対象者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・生徒会保健体育委員が、衛生検査を年間を通して継続的に実施する。</p> <p>・生徒会給食委員が、「咳エチケット・ランチマット調査」を年間を通して継続的に実施する。</p> <p>・生徒が利用できるボールをクラスごとに設置し、昼休みに校庭で運動できる環境を整え、運動を促す。</p> <p>・生徒会生活安全委員による、登下校時のマナーアップの呼びかけを行う。</p> <p>・生徒会少年消防クラブによる発表を通して防災・減災意識の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定的回答は、教職員 87.2%、保護者 90.5%、地域住民 100%、生徒 91.8%で、すべて数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会保健体育委員が、「衛生検査」を、年間を通して継続的に実施する。 生徒会給食委員が、「咳エチケット・ランチマット調査」を、年間を通して継続的に実施する。 生徒会生活安全委員が、通学路の危険箇所や危険行為を紹介し、登下校時のマナーアップを呼びかける。 生徒が利用できるボールを各クラスに設置し、昼休みに校庭で運動できる環境を整え、運動を促す。 歯磨き指導の徹底
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力的に意見を解決している。」 ⇒各対象者の肯定的回答80%以上</p>	<p>・今後も地域の関係団体や自治会との連携のもと、地域行事・地域活動へのボランティア参加を生徒に呼びかけ、地域の一員としての自覚を高める。</p> <p>・宮っ子チャレンジウィークを活用して、社会のためになることを積極的に行う態度や目標に向かって粘り強く取り組む態度を育む。</p> <p>・生徒の考え・意見を尊重し、自主性から主体性へのステップアップを図れるよう指導していく。</p> <p>・朝の会、帰りの会、学級活動などで、具体的な例を示し、考えさせ、褒めることで、集団や地域の一員であるという自覚を持たせる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定的回答は、教職員 82.1%、生徒 86.7%で、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点で目を配り、生徒の良い言動を見取り、称賛し、自己肯定感を高めさせる。 教育相談や学級活動等を活用して、生徒が自己理解を深め、自分の良さに気付くことができるよう支援する。 生徒同士が互いの良さを認め合うことのできる学級づくりに取り組む。 他学級をほめる機会を作り、学年全体で良さを認め合える機会を作る。
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」</p>	<p>・英語で行うことを基本とした英語科授業を実践する。また、基本的事項を活用した自己表現活動や即興の英会話活動を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力の伸長を図る。</p> <p>・英語科の授業だけでなくその他の場面で、ALTとの交流の機会を多く設定する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定的回答は、教職員 94.9%、生徒 73.5%で、生徒回答で目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p>

	<p>⇒教職員・生徒の肯定的回答各 85%以上</p> <p>A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒教職員・保護者・生徒の肯定的回答各 80%以上</p>	<p>・総合的な学習の時間の「宇都宮学」の調べ学習を授業参観の折に発表を行う、学校だよりや HP でより分かるように発信する。</p> <p>・社会科の授業では、地域の古墳を教材として扱うなどして宇都宮の歴史への理解を深め、特別の教科「道徳」では、宇都宮への郷土愛に触れ、宇都宮への愛情と誇りを持てるようにする。</p> <p>・食育での「宮っ子ランチ」や宇都宮に関する図書の紹介、宇都宮にゆかりのある宇都宮百人一首大会についてなど、各種たよりやホームページ等での積極的な情報発信を図る。</p>	<p>・英語の時間だけでなく、給食の会食など A L T との交流の時間を増やす。</p> <p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>71.8</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>69.3</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>81.7</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>81.7</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 71.8%、保護者 69.3%、生徒 81.7%で、生徒のみ目標を上回り、教職員・保護者は下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き、総合的な学習の時間の「宇都宮学」の指導内容の充実を図り、宇都宮の良いところを捉えさせ、これからの宇都宮を考えさせることで、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるようにする。</p> <p>・社会科の授業では、次年度も地域の古墳を教材として扱うなどして、宇都宮の歴史への理解を深め、特別の教科「道徳」では、郷土愛に触れ、宇都宮への愛情と誇りを持てるようにする。</p> <p>・給食での「宮っ子ランチ」や宇都宮に関する図書の紹介、宇都宮にゆかりのある宇都宮百人一首大会についてなど、各種たよりやホームページ等での積極的な情報発信を図る。</p> <p>・教職員間で、宇都宮の魅力を話し合う機会を設ける。</p>	教職員	71.8	保護者	69.3	地域住民	81.7	生徒	81.7
教職員	71.8										
保護者	69.3										
地域住民	81.7										
生徒	81.7										
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員・生徒の肯定的回答各 80%以上</p>	<p>・クロムブックや A I ドリルの積極的な活用を推進する。</p> <p>・ A I ドリルの活用を「朝の学習」や「家庭学習」に位置づけ、継続的な活用を図る。</p> <p>・ I C T 支援員の協力を得て、クロムブック活用の技能向上を図る。</p> <p>・学校ホームページを通して I C T 機器利用や図書室利用状況を積極的に発信する。</p> <p>・図書室のクラスルームの周知活用。</p> <p>・クロムブックの使い方の改善（より良いルールを生徒と共に決めることで自由に使える幅を広げる）。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>73.1</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>69.0</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>69.0</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 89.7%、保護者 73.1%、生徒 69.0%で、教職員は目標を上回ったものの、保護者・生徒は下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・図書室に足を運ぶ機会を増やし、図書等の活用を進める。</p> <p>・年度当初に I C T 機器の使い方の確認を行う。</p>	教職員	89.7	保護者	73.1	地域住民	69.0	生徒	69.0
教職員	89.7										
保護者	73.1										
地域住民	69.0										
生徒	69.0										
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒生徒・教職員の肯定的回答各 80%以上</p>	<p>・教職員自ら、持続可能な社会の理解について自己研修に努め、普段の生活に生かすよう努める。</p> <p>・特設コーナーを設置して、環境や人権に関するポスターを掲示するなどして、生徒の意識の高揚を図る。</p> <p>・古紙回収やプラスチックごみ分別の徹底を図るなど、生徒の実践力を高める。</p> <p>・各教科横断的な視点で積極的に取り組む。</p> <p>・各教科の授業の中で、「持続可能な社会」について関連がある項目に注目させる。⇒教科部会で SDGs に関わる項目の検討(年計の見直しの際に、意識</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>53.8</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>78.0</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 53.8%、生徒 78.0%、教職員・生徒共に目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き、教職員は持続可能な社会について、理解を深め、研修等を通して、日頃からの様々な教育活動に生かせるように努力する。</p> <p>・各教科で取り扱う内容を検討し、横断的に授業を行えるようにする。</p>	教職員	53.8	保護者	78.0	地域住民	78.0	生徒	78.0
教職員	53.8										
保護者	78.0										
地域住民	78.0										
生徒	78.0										

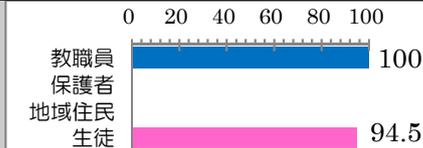
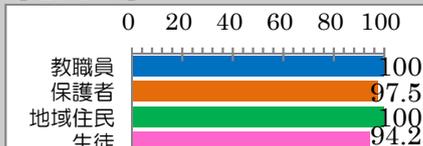
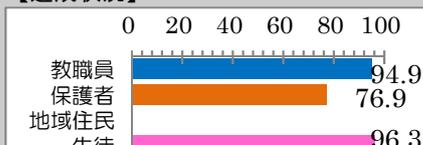
<p>3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上</p>	<p>的に確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の特性を把握し、教職員間で支援の方法など共通理解を図る。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ・保護者やスクールカウンセラー、メンタルサポーター、関係機関と連携して支援する。 	<p>・具体的な取組みを「見える化」する。</p> <p>【達成状況】</p>  <p>肯定的回答は、教職員 100%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 数値指標の目標を高く設定し、継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の特性を把握し、教職員間で支援の方法など共通理解を図る。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ・保護者やスクールカウンセラー、メンタルサポーター、関係機関と連携して支援する。
<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒各対象者の肯定的回答 80% 以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや生徒指導だより、学校ホームページ、保護者会などで、生徒・保護者・地域住民に向けて本校のいじめ対策について積極的に情報を発信していく。 ・いじめゼロ集会など生徒主体のいじめ撲滅に向けた活動を実施して、いじめ等の未然防止を図り、「信頼される学校づくり」に努める。 ・いじめアンケートの実施により、未然防止と早期発見・早期対応の徹底を図る。 ・SNSなどの使い方の注意点や、危険性について継続的に指導していく。 ・スマホについての講演会を、生徒対象ではなく、保護者会に実施することで保護者の啓発を行っていくことで、危険性についての意識を高めていく。 	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定回答は、教職員・地域住民 100%、保護者 74.7%、生徒 96.5%で、保護者のみ目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校だよりや生徒指導だより、学校ホームページ、保護者会などで、生徒・保護者・地域住民に向けて本校のいじめ対策について積極的に情報を発信していくと共に、発信を強化していく。 ・いじめゼロ集会など生徒主体のいじめ撲滅に向けた活動を実施して、いじめ等の未然防止を図り、「信頼される学校づくり」に努める。 ・いじめアンケートの年4回の実施により、未然防止と早期発見・早期対応の徹底を図る。 ・SNSなどの使い方の注意点や、危険性について継続的に指導していく。 ・雀宮中学校いじめ防止基本方針を保護者に説明する場面を設ける。 ・スマホについての講演会を、生徒対象ではなく、保護者会に実施することで保護者の啓発を行っていくことで、危険性についての意識を高めていく。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう一人一人の生徒を大切に、生徒がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒教職員・生徒・保護者の肯定的回答各 85% 以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席時には電話連絡や家庭訪問を積極的に行う。 ・生徒の情報を早期に共有し、担任だけでなく複数の教員で支援する。 ・スクールカウンセラーやメンタルサポーター、保護者等との連携体制を強化する(教育相談部会の充実)。 ・教育相談週間に加え、常時、チャンス相談を活用して、生徒の悩みや不安への早期対応に努める。 ・温かい雰囲気学級の学級経営及び互いに認め合い助け合う集団づくりに努める。 	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定回答は、教職員 97.4%、保護者 88.3%、生徒 95.9%で、全ての対象者で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温かい雰囲気学級の学級経営及び互いに認め合い助け合う集団づくりに努める。 ・欠席時には電話連絡や家庭訪問を積極的に行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・耐性(あきらめない、くじけない、我慢する)を育む指導の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報を早期に共有し、担任だけでなく複数の教員で支援する。 ・スクールカウンセラーやメンタルサポーター、保護者等との連携体制を強化する(教育相談部会の充実)。 ・教育相談週間に加え、常時、チャンス相談を活用して、生徒の悩みや不安への早期対応に努める。 ・耐性(あきらめない、くじけない、我慢する)を育む指導の充実に努める。
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、生徒の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」 ⇒各対象者の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を認め、励ます教育を推進して教職員と生徒の温かい人間関係、信頼関係を構築する。 ・各種の実行委員会を中心とした生徒の主体的な活動を多く取り入れ、達成感や充実感が味わえるようにする。 	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定回答は、教職員・地域住民 100%、保護者 87.8%、生徒 94.9%で、保護者のみ目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒を認め、励ます教育を推進して教職員と生徒の温かい人間関係、信頼関係を構築する。 ・各種実行委員会を中心とした生徒の主体的な活動を多く取り入れ、達成感や充実感が味わえるようにする。 ・HP や各種お便りを使った発信を強化していく。
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 ⇒教職員・保護者・生徒の肯定的回答各 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より組織的に学力向上を図っていくため、教科部会を通して本校の学力の実態を共有し、到達目標を設定し、共通した指導上の工夫を各教科で検討・実践していく。 ・教員同士で授業を公開し、生徒の学ぶ意欲をより効果的に引き出す授業形態や指導法を互いに探求し合い実践する。 ・「思考力・判断力・表現力」の育成を図るため、一人一公開授業や教科部会などの校内研修を実施しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善や、生徒に「見方・考え方」を働かせて課題に取り組ませるための発問・学習形態の工夫に取り組む。 	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定回答は、教職員 100%、保護者 80.1%、生徒 93.0%で、全ての対象者で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教科部会等の組織を生かしての学力向上策の検討や教員間の授業公開による授業力の向上などの取組を継続していく。 ・育成すべき資質能力の評価方法について、さらに検討を進めて行く。
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員がそれぞれの専門性を生かしながらチームとして取り組み、学習指導や生徒指導の充実により一層図っていく。 ・スクールカウンセラー、メンタルサポーター、特別支援教育コーディネーター等が参加するケース会議を積極的に開催し、多様な専門性に基づく情報交換を行う。 ・習熟度別学習やチーム・ティーチングの積極的な実施、かがやきルーム指導員との連携強化により、基礎学力の向上を図る。 	<p>【達成状況】</p>  <p>肯定回答は、教職員 94.9%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き全教職員がそれぞれの専門性を生かしながらチームとして取り組み、共通理解のもと、学習指導や生徒指導の充実により一層図っていく。 ・スクールカウンセラー、メンタルサポーター、特別支援教育コーディネーター等が参加するケース会議や職員研修を、年間を通して積極的に開催し、多様な専門性に基づく情報交換を行う。 ・習熟度別学習やチーム・ティーチン

			<p>グの積極的な実施,かがやきルーム指導員との連携強化により,基礎学力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーに、Q-Uに関する研修会を実施してもらい、研修を通して学年で協力していく体制をつくる。 										
4-(3) 学校における働き方改革の推進	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームを発足し、他校の事例を積極的に収集・検討等を行い、自校化を図り、改善をめざす。 ・教職員の時間に関する意識改革やICTの活用による業務の効率化を図るなどして、「授業の改善を図るための時間」や「生徒と向き合うための時間」の確保に努める。 ・学校行事等の内容・活動期間等の工夫をより一層図り、持続可能なものにしていく。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><th>対象者</th><th>割合</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>84.6</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>86.6</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>80.3</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 86.6%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教職員の時間に関する意識改革やICTの活用による業務の効率化を図るなどして、「授業の改善を図るための時間」や「生徒と向き合うための時間」の確保に努める。 ・効率化の意見を出せる場やプロジェクトチームによる検討の機会を設け、他校の事例を積極的に収集・検討等を行い、自校化を図り、改善をめざす。 ・テスト結果の分析処理や採点業務を効率化のために、採点ソフトの導入について検討を進める。 ・職員会議の時に伝達のみで済むものと協議が必要なものを分けて実施することで効率化を図る。 ・データの共有化及び共用フォルダの整理。 ・学校行事等の内容・活動期間等の工夫をより一層図り、持続可能なものにしていく。 	対象者	割合	教職員	84.6	保護者	86.6	地域住民	93.8	生徒	80.3
対象者	割合												
教職員	84.6												
保護者	86.6												
地域住民	93.8												
生徒	80.3												
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒各対象者の肯定的回答各 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小中の交流活動を継続して行い、小中一貫教育・地域学校園の取組を強化していく。 ○学校園だよりや学校だより・学校HPを活用して、地域学校園の取組を保護者・地域住民に周知する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><th>対象者</th><th>割合</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>79.8</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>93.8</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>80.3</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 89.7%、保護者 79.80%、地域住民 93.8%、生徒 80.3%で、保護者のみ目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明けたことによる交流活動の復活に伴い、一層「小中一貫・地域学校園」としての取組のねらいや活動内容等を、生徒のみならず、学校園だよりや学校だより・学校HPを通して、保護者・地域住民にも広く周知していく。 	対象者	割合	教職員	89.7	保護者	79.8	地域住民	93.8	生徒	80.3
対象者	割合												
教職員	89.7												
保護者	79.8												
地域住民	93.8												
生徒	80.3												
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答各 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアやPTAと協力をして、地域の教育力を生かした活動を推進していく。 ・生徒が参加する地域ボランティア活動の在り方を工夫・改善していく。 ・キャリア教育への生徒の意識を高めるため、外部講師等を積極的に活用するとともに、宮っ子チャレンジウィークを積極的に継続的に活用する。 ・「働く人に学ぶ」の実施時期を考慮する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><th>対象者</th><th>割合</th></tr> <tr><td>教職員</td><td>97.4</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>85.0</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>80.7</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 97.4%、保護者 85.0%、地域住民 100%、生徒 80.7%で、すべての対象者で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域ボランティアやPTAと協力をして、地域の教育力を生かした活動を推進していく。 	対象者	割合	教職員	97.4	保護者	85.0	地域住民	100	生徒	80.7
対象者	割合												
教職員	97.4												
保護者	85.0												
地域住民	100												
生徒	80.7												
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進													

			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が参加する地域ボランティア活動の在り方を工夫・改善していく。 ・キャリア教育への生徒の意識を高めるため、外部講師等を積極的に活用するとともに、宮っ子チャレンジウィークを積極的に継続的に活用する。 ・地域未来会議では、生徒と地域住民が一緒に雀宮地区について考える。 								
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所開設時を想定した上で、校内安全点検を確実に実施するとともに、市や地域関係者と連携して利用者の安全確保に努める。 ・破損個所に迅速に修繕する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>94.6</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>100</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 100%、保護者 94.6%、地域住民 100%で、すべての対象者で目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、避難所開設時を含めた校内安全点検を確実に実施するとともに、市や地域関係者と連携して利用者の安全確保に努める。 ・老朽化した施設の改修 	教職員	100	保護者	94.6	地域住民	100	生徒	100
教職員	100										
保護者	94.6										
地域住民	100										
生徒	100										
6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」 ⇒生徒・教職員の肯定的回答各 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロムブックの積極的な活用を推進する。 ・ウェブによる情報の偏りを補正したり、情報を多面的に捉えたり情報リテラシーの向上を図るため、図書の利用を促す。 ・ソフトウェア研修を実施し、タブレット型パソコンの活用推進を図る。 ・学校ホームページを通して ICT 機器利用や図書室利用状況を積極的に発信する。 ・プロジェクター（電子黒板）の活用を一層推進する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>89.7</td></tr> </table> <p>肯定回答は、教職員 89.7%で、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、クロムブックの積極的な活用を推進する。 ・学校全体で使用してもスムーズに使用できるような通信環境を整備する。 ・わからないことを質問し合える雰囲気をつくる。 ・生徒会活動等の資料等はクロムブックを積極的に活用していく。 ・ソフトウェアやプロジェクター（電子黒板）活用のための研修を行う。 	教職員	89.7	保護者	89.7	地域住民	89.7	生徒	89.7
教職員	89.7										
保護者	89.7										
地域住民	89.7										
生徒	89.7										
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒各対象者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や地区内小学校と連携した朝の登校指導（あいさつ、声かけ）の実施など、生徒主体の活動を継続する。 ・PTAや地域との連携強化を図る。 ・教師が率先垂範を心がける。 ・あいさつ運動の様子などを、各種通信やHPを通して、学校外へ周知していく。 ・あいさつの意義を考えさせるとともに、良い例を示し、褒めることで意識を高めていく。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>79.5</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>84.7</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>95.7</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 79.5%、保護者 84.7%、地域住民 100%、生徒 95.7%で、教職員と保護者が目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、あいさつ運動や地域学校園内小学校と連携した朝の登校指導（あいさつ、声かけ）の実施など、生徒主体の活動を実施する。 ・地域との連携強化を図る。 ・教師が率先垂範を心がける。 ・あいさつ運動の様子などを、各種通信やHPを通して、学校外へ周知する。 ・マスク等により、大きな声であいさつができない場合でも、会釈をするなど、あいさつの重要性を意識させる。 ・あいさつの意義を考えさせるとともに 	教職員	79.5	保護者	84.7	地域住民	100	生徒	95.7
教職員	79.5										
保護者	84.7										
地域住民	100										
生徒	95.7										

			に、良い例を示し、褒めることで意識を高めていく。 ・生徒主体であいさつを盛り上げる企画や呼びかけを行い、習慣化していく。
B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	・今の自分たちに誇りを持たせる指導を行い、自尊心の向上を目指す。 ・「学校生活に関するきまり」の周知徹底及びクロムブックで随時確認可能にすることにより、規律のある学校生活を送ることができるようにさせる。 ・「規範意識の高揚」を学校・学級経営の重点目標に掲げ、すべての教員が共通理解のもと取り組んでいく。 ・生活安全委員会の生徒を中心として、決まりについて検討する。 ・生徒指導が生活安全委員を動かせるようにするなど校務分掌を一致させる。 ・「規範意識の高揚」を学校・学級経営の重点目標に掲げ、すべての教員が共通理解のもと取り組んでいく。	【達成状況】 0 20 40 60 80 100 教職員 82.1 保護者 89.4 地域住民 100 生徒 93.0 肯定的回答は、教職員 82.1%、保護者 89.4%、地域住民 100%、生徒 93.0%で、教職員のみ目標を下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、今の自分に誇りを持たせる指導を行い、自尊心の向上を目指す。 ・生徒の考え・意見を尊重し、自主性から主体性へのステップアップを図れるよう指導していく。 ・「生活に関するきまり」をクロムブックやHPでいつでも確認できるようにするなど、周知徹底のための工夫をし、規律ある学校生活を送ることができるようにさせる。 ・生活委員会の生徒を中心として、決まりについて考えさせる。 ・生徒会を中心として、校則の見直しを進めるとともに、自分たちのルールは自分たちのために守る意識をもたせる。	A
B3 生徒は、自分の良いところを理解している。	・多角的な視点で目を配り、生徒の良い言動を見取り称賛し、自己肯定感を高めさせる。 ・教育相談や学級活動等を活用して、生徒が自己理解を深め、自分の良さに気付くことができるよう支援する。 ・生徒同士が互いの良さを認め合うことのできる学級づくりに取り組む。	【達成状況】 0 20 40 60 80 100 教職員 79.5 保護者 80.5 地域住民 生徒 85.4 肯定的回答は、教職員 79.5%、保護者 80.5%、生徒 85.4%で、教職員と保護者が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、多角的な視点で目を配り、生徒の良い言動を見取り称賛し、自己肯定感を高めさせる指導法を共有する。 ・教育相談や学級活動等を活用して、生徒が自己理解を深め、自分の良さに気付くことができるよう支援する。 ・生徒同士が互いの良さを認め合うことのできる学級づくりに取り組む。 ・教師間での事例共有に積極的に取り組む。	A
B4 生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。	・家庭学習ノートの効果的な活用を工夫し、授業の復習を中心とした学習習慣の定着を図る。 ・能力に応じた学習目標の設定と実施内容の精査などについて、個別の支援を充実させる。	【達成状況】 0 20 40 60 80 100 教職員 89.7 保護者 73.7 地域住民 生徒 91.0 生徒の肯定的回答は、91.0%で目標を上回った。 【次年度の方針】 ・家庭学習とはどのようなものかを示し、学習の質を高める。 ・予習・復習の習慣をつけさせる。	B
B5 教職員は、生徒の良さや頑張り認め、ほめている。	・道徳科の授業や学級活動、学校行事、部活動をはじめ、日常生活の中で一人一人の良さを認め、励まし、称賛し	【達成状況】	B

	<p>全体アンケート「先生方は、生徒の良いところや頑張ったことをほめてくれる」 ⇒教職員・生徒の肯定的回答 各 85%以上</p>	<p>て、生徒が自己肯定感を高めることができるよう、全校体制で取り組む。</p> <p>・生徒理解を深めることができるよう、教職員間で生徒に関する情報交換を積極的に行う。</p> <p>・乗り越えられるような場面を作り、そこから達成感を味わわせる。</p>	 <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>94.5</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>生徒</td><td></td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 100%、生徒 94.5%で、教職員・生徒共に目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、道徳科の授業や学級活動、学校行事、部活動をはじめ、日常生活の中で一人一人の良さを認め、励まし、称賛して、生徒が自己肯定感を高められるよう全校体制で取り組む。 生徒を通じて情報を得る保護者に対しても学校の取り組みが伝わるような工夫をしていく。 生徒理解を深めることができるよう、教職員間で生徒に関する情報交換を積極的に行う。 毎月目標を立てさせる。 乗り越えられるような場面を作り、そこから達成感を味わわせる。 	教職員	100	保護者	94.5	地域住民		生徒	
教職員	100										
保護者	94.5										
地域住民											
生徒											
	<p>B6 生徒は、雀中そーらんや合唱コンクールなどの行事に精一杯取り組み、やり遂げた。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、雀中そーらんや合唱コンクールに精一杯取り組み、やりとげることができた」 ⇒生徒の肯定的回答 95%</p>	<p>・生徒主体の取組を展開し、認め、励まし合い、仲間と共によりよいものを創り出そうとする意識や、目標に向かって粘り強く努力するなどの豊かな心の醸成に努める。</p> <p>・学校行事を精査し、工夫・改善を図ることで、達成感が十分に得られるようなものにしていく。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>97.5</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>94.2</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 100%、保護者 97.5%、地域住民 100%、生徒 94.2%で、すべて数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生徒主体の取組を充実させ、認め、励まし合い、仲間と共によりよいものを創り出そうとする意識や目標に向かって粘り強く努力するなどの豊かな心の醸成に努める。 持続可能な学校行事にしていくよう、行事ありきの生活を見直していく。 	教職員	100	保護者	97.5	地域住民	100	生徒	94.2
教職員	100										
保護者	97.5										
地域住民	100										
生徒	94.2										
	<p>B7 (学校園共通) 生徒は、食事の時のマナーをしっかり守っている。(あいさつ、はしやお茶わんの持ち方、ひじをつかないなどの良い姿勢など)</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、食事のマナーをしっかり守っている。(あいさつ、はしやお茶わんの持ち方、ひじをつかないなどの良い姿勢、など)」 ⇒生徒の肯定的回答 90%</p>	<p>○地域学校園統一食事マナー週間の設定および家庭保存版指導資料の作成・配布</p> <p>○昼の放送での呼びかけ</p> <p>○食事マナービデオによる啓発</p> <p>○振り返り表を作成し、児童生徒一人一人に振り返らせる。</p> <p>○食育クラスルームを作り、関連資料等を掲載する。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>94.9</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>76.9</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>生徒</td><td>96.3</td></tr> </table> <p>肯定的回答は、教職員 94.9%、保護者 76.9%、生徒 96.3%で、保護者が目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育月間(6月、10月)に食事マナーについての啓発を行う。 食事マナービデオなどによる啓発を行うとともに、できていない生徒に対しては、その場で注意して習慣化させる。 食事マナー週間以外でも啓発し、意識を高める。 	教職員	94.9	保護者	76.9	地域住民		生徒	96.3
教職員	94.9										
保護者	76.9										
地域住民											
生徒	96.3										

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

ほぼ丸三年に及んだコロナ禍が明けたことにより、学校としての取組もコロナ前に戻しつつあるが、コロナ前の雀宮中学校を知る生徒は皆無で、職員も少数となり、まったく同じようには戻せていない現状がある。今回のアンケート結果にも、少なからずその影響が出ているのではと考えられる。例えば、「あいさつ」など生徒の姿に関わる項目では、生徒は生

徒会を中心に、生徒なりに工夫して、改善しようと努力しているが、成果にもつながって来ているが、評価としては目標値には届かなかった。他にも B3：自己肯定感に関わる項目や B4：家庭学習の項目なども同様に、特に教職員や保護者からの評価は目標に届かなかった。

一方で、本年度は、アンケートの質問項目の文言の修正が行われた項目がいくつかあったため、昨年度との比較はできない調査結果であるため、本評価も基本的には前述の通り、目標値との比較において考察していく。

アンケート 27 項目中、目標を達成できなかった 11 の項目をカテゴリーに分けて、それぞれ考察を記す。

目標を達成することができなかった項目・目標値：※（達成できなかった調査対象 %）

A6：85%：生徒は、英語の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。（生徒 73.5%）

A7：80%：生徒は、宇都宮の良さを知っている。（教職員 71.8%、保護者 69.3%）

A8：80%：生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。（保護者 73.1%、生徒 69.0%）

A9：80%：生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。（教職員 53.8%、生徒 78.0%）

B4：90%：生徒は、毎日家庭学習に取り組んでいる。（教職員 89.7%）

⇒ 学校での学習状況などの課題

A11：80%：学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。（保護者 74.7%）

A13：80%：教職員は、生徒の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。（保護者 87.8%）

⇒ 学校や教職員の取組・指導に関する課題

B1：85%：生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。（教職員 79.5%、保護者 84.7%）

B2：85%：生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。（教職員 82.1%）

B3：85%：生徒は、自分の良いところを理解している（自己肯定感を持っている）。（教職員 79.5%、保護者 80.5%）

⇒ 生徒の姿・状況等に関する課題

【学校での学習状況などの課題】

これまでのアンケートでは、生徒に対しても「生徒は・・・」と質問していたところ、今年度からは「私は・・・」に変更になったことから、昨年度比ではどの項目も下がっている。やはり、自分のこととなると評価は控えめになることは想像できる。しかし、目標値を昨年度のままにしていたため、ここにあげられた項目のすべてで今年も連続して目標値に届かなかった。とは言え、例えば A6 の英語でのコミュニケーションについては、73.5% およそ 3/4 の生徒が肯定回答しており、保護者年代や地域の方に同様の質問した場合の肯定回答率を想像すれば、この結果は指導の成果と言えるのではないだろうか。次年度はまずは 75% をめざしたい。

一方で、A7 の宇都宮の良さについては、生徒は目標を達成しているが、保護者や教職員は成果に満足していない様子が見えがえる。学習内容や成果の発信にも力を入れていきたい。

また、A8 のデジタル機器の活用、A9 持続可能な社会については、教職員や生徒に解決しなければならない障害があるため、組織的に改善に向けて工夫をしていきたい。

【学校や教職員の取組・指導に関する課題】

A11 の学校のいじめ対策と A13 の生徒に寄り添う指導について、どちらも保護者で目標値を下回ったのは、周知活動の不足が原因と考えられる。いじめゼロ集会の実施状況や教育相談週間などの実施については、お知らせしているが、今後はそれぞれの詳しい内容や成果などにも触れた内容を周知用の報告に盛り込んでいきたい。

【生徒の姿・状況等に関する課題】

B1 あいさつと B2 きまりやマナー、B3 自己肯定感については、生徒はすべて目標値を上回ったが、教職員や保護者は目標値に届かなかった。生徒はそれぞれ「自分としてはよく頑張っている」と考えている生徒が多いことがうかがえるが、教職員や保護者からの評価は厳しいものとなっている。生徒会主導のあいさつに関する取組も始まっており、今後の成果に期待したい。

B2 のきまりマナーに関しても同様に、特に自転車の乗り方等に関する心配の連絡が地域から寄せられることも多々ある。自転車の交通ルールの変更等もあるため、指導の工夫をしていく。

B3 の自己肯定感については、本年度目標値を 85% に高めたこともあり、教職員のみ目標値に届かなかったが、今後も集団の中でも一人一人の良さに目を向け、活かしていく指導を心掛けて行く。

【目標を達成した項目で顕著なものについて】

(生徒+28.6%)

A13：学校は、地域学校園の小学生や先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。

⇒コロナ禍が明け、小学生による中学校訪問や、小学校に出向いてのあいさつ運動など、コロナ前の活動に戻せたものが多く、生徒も実感しての評価になったと考えられる。今後も活動を充実させていきたい。

(教職員+15.7%)

A17：私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

⇒本年度は、勤務時間の削減を目標の一つに設定した教職員が多く、教職員間で業務の工夫について意見交換等を進めながら、それぞれの成果を確認できた。このことが調査結果につながったと考えられる。また、職員全員参加アンケートによる意見集約や教職員間の話し合う機会の設定を含め、今後もより一層の効率化を目指していきたい。

(教職員+11.1%，保護者 3.8%)

A19：学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

⇒毎月の安全点検の確実な実施や、そこから報告された特に生徒の安全にかかわる修繕等は迅速に対応した。それらが今回の結果につながったと考えられる。震災・天災はいつ来るか分からないこともあり、環境整備については引き続き努めていきたい。

7 学校関係者評価

本年度は、2月7日の地域協議会（出席者27名）の席上で、学校評価アンケートの結果及び項目ごとの「次年度の取組の方向性」並びに「総合的な評価」について説明した後に、質疑応答の形式で学校評価についてのご意見を伺った。

【全体を通して】

アンケートの各項目の結果については、「生徒は」が「私は」に質問項目が変更になったことによるポイント低下をはじめ、その他の結果についても概ねその理由等をご理解いただくことができた。特に（A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている）については、R04の85.5%から73.5%にマイナス12.0%下がったが、市平均も73.5%と同等であり、約3/4の生徒が肯定していることは、とても立派であることもご理解いただいた。

他にも、今後の取組の方向性に「A」を記した項目については、個々に説明させていただき、賛同をえられた。

一通り説明させていただいた後に委員から寄せられた意見や質問等について、それらの学校としての見解等（⇒以降の記述部分）を含め、次に列挙する。

【A11 学校のいじめ対応について】

・生徒のポイント（96.5%）に比べ、保護者が低い（74.7%）のがとても気になる。

・いじめゼロ集会（年2回）の取組に加え、いじめアンケート（年4回）の実施などにより、生徒のポイントが高いのは理解できるが、保護者のポイントが低いのは、心配の表れではないかと思われる。

・保護者が安心してお子さんを通わせられるよう、学校のいじめに関する取組をもっと周知するべきだと思う。

⇒本校としては、「いじめはかならずある」という共通の認識から、いじめ防止基本方針（HPで公開）に則り、本人からの訴えのみならず、いじめアンケート（いじめを見た・聞いたを含む）などから情報等を得られた場合、迅速かつ組織的に一つ一つの事案に対応しており、それぞれの案件については、できる限りの解決を図ってきているところである。

いじめ対応として情報を公開してきた取組は、「いじめゼロ集会（年2回）」「いじめアンケート（年4回）」の実施等に留まっている。今後は、周知のみならず、保護者や地域の方々にも「いじめゼロ」に向けてご参加いただけるような取組などを企画していくことを検討していきつつ、引き続きいじめ防止及びいじめ対応等について、一つ一つ丁寧に対応していく。

【A12 学校の不登校対応について】

・学校においては、スクールカウンセラーやメンタルサポーター、保護者、及び外部の機関等と連携して、不登校生徒の対応や不登校の未然防止について取り組まれているようだが、これからもがんばってほしい。

・雀宮中学校の不登校生徒には、地域としても子どもの話を聞いたり、相談に乗ったり、支援できることがあれば協力していきたい。

⇒不登校の理由や状況も生徒一人一人それぞれ違いがあるが、多くの生徒は担任の先生と連絡を取り合える関係が築けており、週や月に数回など、定期的に放課後登校（ワンタッチ登校）等を行っている。

また、個別対応教室（通称：ステップアップルーム）の運用を本年度からスタートさせ、教室と担当する先生を確保して、可能な限り一人一人のニーズに沿った指導を進めている。この教室をきっかけに学校への登校を再開できた生徒もおり、次年度に向けて取組を拡充していく方針である。

【B3 生徒の自己肯定感について】

・生徒自身は、自分の自己肯定感について肯定する割合が高い（85.4%）のだが、教職員が低くなっているのはどうしてなのか？先生方は生徒の自己肯定感を認めていないのか？

・地域には、子どもたちの居場所づくりのために、子ども食堂をはじめ、様々な取り組みを行っている団体がある。子どもたちの居場所があることと子どもの自己肯定感、関連が大きいと思う。ステップアップルームの取組と共通すると思われるので、成果を期待している。

⇒ 生徒回答に比べて、教職員の回答割合が低いのは、生徒の現状に満足していない先生が少なからずいるためだと考えられる。先生方の中には、生徒一人一人の現状や成長を認めつつも、「もっとできるはずだ」「もっと高めてあげたい」という希望があることから、「まだまだ」と否定的な回答をしている先生が少なからず居ることをご理解いただきたい。

⇒ 南図書館が工事中だったこともあり、生徒からも「自習できる場所が欲しい」などの要望があったが、地域の方々も様々な形で「子どもの居場所づくり」を進めていただいていることについては、学校としてもとてもありがたく感じている。地域団体との連携を密にしながら、子どもの自己肯定感の育成に寄与していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体を通して】

本年度は、コロナ禍が明け、学校での教育活動をコロナ前のように戻しつつも、まったく同じようにはできないことが多々あり、模索しながらの一年となった。次年度もその状況は続いていくことが想定されているが、生徒のよりよい成長を目指し、様々な課題を解決しながら工夫改善を進めていきたい。

今年度の学校評価においては、学校関係者への説明の通り、質問項目の文言に変更があったため、昨年度との比較が難しく、特に生徒質問で「生徒は」が「私は」に変更になった13項目の内、肯定割合が2.0%以上下がった項目が6項目であった。しかし、「B2 きまり・マナー」と「B3 自己肯定感」については、「生徒は」が「私は」に変わったにもかかわらずポイントがそれぞれ3.9%向上しており、これは、生徒がとても落ち着いていきいきと学校生活を送っている状況を表していると考えられる。

また、保護者回答においても、昨年度は2.0%以上下がった項目が17項目中11項目であったが、本年度は17項目中4項目に留まり、また、2.0%以上向上した項目が昨年度の2項目から本年度は4項目と増え、ここ数年のコロナ禍の影響とも考えられる下降傾向に歯止め掛かってきたと感じられる。とは言え、現状に満足はせずに、学校評価書の次年度の方針に示した教育活動の充実に努め、更なる生徒の成長・向上を目指して取り組んでいきたい。

以下、7 学校関係者評価 の欄で記した内容・まとめ等を再掲し、最後に本校の令和6年度の重点目標を示す。

【A11 学校のいじめ対応について】

学校関係者から質問のあった（A11 学校のいじめ対応）については、本校のいじめゼロ集会やいじめアンケートの実施などの取組を引き続き実施しながら、それらを周知する活動に力を入れていく。併せて、保護者や地域のみなさんの力も借りて、協働で取り組める活動を取り入れるなど、工夫を図っていく。

また、【次年度の方針】に示した、SNSなどの使い方の指導、いじめ防止基本方針を保護者に説明する場面の設定、スマホについての講演会実施、等については拡充していく。

【A12 学校の不登校対応について】

同様に、（A12 学校の不登校対応）についても、ステップアップルームのより一層の活用の工夫や、担任の先生が一人で抱え込むことなく、組織的に対応できるように、学校全体及び外部団体との連携を図りながら、引き続き取り組んでいく。

また、本年度の主な具体的な取組（欠席時の電話連絡や家庭訪問、情報共有し複数の教員で支援、スクールカウンセラーやメンタルサポーター・保護者等との連携強化、教育相談部会の充実、チャンス相談の活用、温かい雰囲気のある学級経営及び互いに認め合い助け合う集団づくり）については、内容の充実に努めていく。

【B3 生徒の自己肯定感について】

地域の方々が様々な形で、子どもたちの自己肯定感につながる「子どもの居場所づくり」を進めていただいている。学校としても地域団体との連携を密にしながら、子どもの居場所づくり及び子どもの自己肯定感の育成に寄与していく。

また、【次年度の方針】に示した取組（目を配り、生徒の良い言動を見取り称賛、教育相談や学級活動等を活用・支援、互いの良さを認め合うことのできる学級づくり）に取り組んでいく。

令和6年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

- (1) 学校運営 「業務改善の推進と地域の教育力の活用による、いきいきとした学校づくり」
 - ・勤務時間を意識した働き方の推進による、働きやすい職場と生徒と向き合う時間の確保
 - 地域の教育力を生かした「地域とともに歩む学校」づくり
 - ・特色ある学校づくりを行う学校運営の工夫
- (2) 学習指導 「基礎的知識・技能を活用しながら、主体的に考え、表現できる生徒の育成」
 - 基礎・基本の確実な定着と、「わかる、できる」を実感させる授業の工夫・実践
 - ・ICTの計画的・効果的な活用による「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善と「主体的に学習に取り組む態度」の育成
 - ・宇都宮モデルを活用し、各場面（はっきり、じっくり、すっきり）における指導の充実と基礎的・基本的な知識及び技能の習得
- (3) 生徒指導 「夢や希望に向かって挑戦する、たくましい生徒の育成」
 - 温かい人間関係のもとで、自分の良さを発揮しながらいきいきと活動できる生徒の育成
 - ・一人一人の良さを認め、励まし、称賛して自己肯定感・自己有用感を高める指導の充実
 - ・認め合い、励まし合い、助け合う温かみのある集団の形成と、耐性（我慢する、あきらめない、くじけない）を育む指導の充実による、いじめ・不登校対策の充実
 - ・感謝の心を育む生徒の育成
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）「食と健康に対する関心を深め、体力の向上を目指す生徒の育成」
 - 生涯を通じて健康なからだを維持していくための基盤づくり
 - ・健康と食の安全確保のための指導の充実と、体力の向上を目指すための工夫を凝らした教育活動の推進
 - ・防災教育の推進